

沼尻絳一郎編輯
西南鎮靜記

二
号

上



沼尻絰一郎編輯全三冊



西南鎮靜記

東京

萬笈閣發兌



安寧

大夢錦



増田宗太郎



後藤純平





西郷隆盛眞筆

存途逃もま披奇
神山所至は格草破随
後法行し出ま
まし字融有宅披
南海

西南鎮靜記二編卷之上

東京 沼尻桂一郎編輯

第三回

西軍鬼ヶ嶽の大激戦
并臼杵の士族憤戦す

却説西海中國の蟠結一官賊互に連衡合
從一再び鹿兒島に紛起するが如きハ或ハ
兇焰の四方に散乱し遂に天下の大事に至
るべき未だ知るべからざるあり然るハ

賊徒ハ其の蜂起の機會を失ひ零々落落
として前後不錯出するふより自ら孤立
の勢と為り一敗して地不塗れ坐るが後
起者の勢力を失ひ觀望者をしてその心
を杜絶さるふ至らむ既ふ六月三日大関
山、國見山の兩深山を官軍攻撃し賊徒日
向野村の背後の山に登り砲臺を築き此
大関山、國見山の當團は於て先頃も攻撃す

たり後賊徒が乘取りはと官軍攻撃す
その後賊地となり尤余程の難所なる固
守する該團は素より大関山、城山へ線を進
め官軍へ連絡を絶つと要する掛合あり
依て官軍防禦線も俄に室尾山より隠れ山
百間河原のところ迄進撃し第三旅團との
連絡を絶つと尤該團へ佐敷より水俣へ
掛け籠ふ連絡も相絶あり如何なる訳ふ

や奮撃突然して第三旅團の線と引揚げとり
又前陣の運みて再び連絡と継ぎ豫め官軍防
禦線たる巧と通の正面たる松尾上場并ふ其
斜み右の鬼ヶ嶽に賊徒の多人數砲壘と防禦
せし何分官軍の線よりハ賊徒の居る地理ハ充
分の要害なれば先づ此鬼ヶ嶽と進撃せんと
前日より軍議評定あり同五日午前第三時
三十分開戦の事は決りて正面よりハ五大隊

一中隊圓乘中尉引率外ハ新四番六番の二
小隊是ハ上田中尉が引率あり左翼よりハ同
大隊二中隊佐藤中尉引率何れも松尾上場の
賊壘と抜くと官軍破竹の勢ハを振ひ大
砲小銃と連發すその砲聲空に轟き恰も霹
靂の碎けて落るが如くあり又鬼ヶ嶽ハ諸隊
み手配りありて第四大隊二中隊渡邊中尉
第五大隊三中隊永田中尉等各隊と引率

右各隊へすべて充分の高見へ向て進撃し
其巢窟と這上り賊徒の何様も赤掛るとも
決して賊壘に近づくと迄の發砲致さずとの軍
議にて第三時より進軍折節大雨ふて霧深く
幸ひも賊の攻撃奮闘を覚えず正面の隊の
賊壘より十二三間の場合まで這上りたるも
賊徒の哨兵覺知し頻りも大声を上げ發砲
するも官軍依然として賊壘より五六間の

場合まで這上りたるも賊徒の哨兵進撃し
て大聲を上げ發砲するを官軍依然として賊
壘より三四間の場合まで登り砲撃して巢窟と
拔きて其兵勢益熾んみりて勇進激烈なる
状はさるる泰山も爲み砕くつと許りも怪し
むも至る是に於て官軍直も奮進し賊徒の其
勢に怖れ逃れんとせしが引返して此所を龍
途と暫時は逐つ追れつ必死ありて戦ひし



官軍鬼ヶ嶽の賊屋
を抜かんと進撃す



が一發も亦ざる小隊も何り官軍槍の俛砲壘
ふ到り賊徒之を視て千變萬化し防戦した
れど勦氣日比二百倍せし其中一手に賊徒の
群がり又馳入衝殺し壘を乗り取り追撃し
たりと又同七日新募巡查の者追々戦ひし相
熟し兵氣も隨て奮ひ竹田落城の後ハ尾撃し
て豊後路の官軍既し重岡佐伯臼杵より進撃
せん與其他陸軍遊撃隊ハ三重市に進軍し勇

進激烈なる状ハさうなぐ其砲聲ハ萬雷の
如く山岳為し震ふに至るも頗る苦戦して
其他官軍ハ臼杵に出張し村田の一手あつて
大分縣士族共賊徒の迂廻し逢ひ大に苦戦に
て一時ハ隊兵少く驚動し或ハ進を或ハ退
き互に激戦し且賊勢大分縣廳へ相迫るの
勢ハひまつき暫時官兵進軍とて戦線を取
直し進撃せしむる薩摩の逆徒ハ日向より

豊後ふ入り進んで臼杵ふ迫り同所の士族と多
く脅從せしめんと中ふ岡純一郎。郡家集衛。
橋本吉磨。日坂東水。谷潜の五人へ逆徒が誘ふ
と嚴ふ謝絶して或ひは数賊ふ應撃し千変
万化は黒烟の隙を潜り此處彼所よりして
白刃を閃く。一時戦ひて遂ふ討死したり
又牧田劍小川省吾の二人も賊徒の脅迫を拒
み劍槍を振て頭れ出で破竹の勢ひの逆徒

と邀撃し各狂獅憤虎の威を振ひ右横左横
へと切て廻る。逆徒の始めの程物の数ともせ
ず暫時は是と戦ふ其勇敢なるを從軍士族
の切込を心得たりと銃槍ふて防ぎ留斬立
衝立。一が牧田小川を必死に激戦して賊数人
を斃し遂ふ牧田小川の兩人へ討死せし逆
徒も其勇戦に頗る賞歎したるより。同
縣士族巡查の賊軍の為ふ頗る苦戦なり

一が援兵の着するを待て一齊あて逆徒
とバ壘粉ふるゝ吳んぞと頻りふ防戦あり
居たりゝところへ追々援軍繰込たれども士
族巡查ふゝ戦死せゝの凡四十餘人援軍
俄然として賊軍の横合より烈しく砲發
せゝ程ふ逆徒は是に一驚せゝところを官軍
左右前後を取圍んで砲撃せゝ故ふ慄悍
なる逆兵も進退此所ふ極り滴る鮮血を拭

るぐゝ賊軍を收めて引取りたりとりへり此
戦ひふ賊徒の死傷は最も多ゝとすまゝと
豊後路出張せゝ萩原大警部日記の寫
五月二十五日開戦今市まで進軍賊の根
据且地形を探偵すふ竹田城の右側ふ
當り星子山最も要害の地なるを以て
前後より攻撃の議を定む因て五番小
隊と今市の警備ふ充て四番小隊は田

中口の街道に進まりむ午前第六時同所
にて整列古無田を経神堤に至り同九
時同所より直に二手に別れ萩原二番
六番の二小隊を率ひ竹田口の間道に向
て出兵す其より進入り間道の二小隊進
んで直に星子山の賊壘を乗取る賊軍竹
田城に向て退走す我軍追撃鏡村に至
る此に於て本道進撃の二小隊に會す此

に於て追撃を止め星子山を根據として千
足村まで六七ヶ所を胸壁を築き固く防禦
の線を張る此日我が軍戦死する者一人負
傷する者十四人あり同二十六日休戦玉來
より野津陸軍大佐本営に來り明日攻撃
の方畧を議す陸軍人員乏少なるを以
て我が五番小隊を今市より引揚げ玉來
口の陸軍に遣す同二十七日開戦本日総



臼杵の士
族賊軍と
防戦する



攻撃ふつき午前第三時鏡川と越て
進撃す賊軍七里村桑の木原平村田
代ふ胸壁を築き險ふ因て固守す地形極
め堅固なるを以て我軍苦戦死する者
八人負傷するもの四十七人あり此日陸
軍玉来口ふ攻撃の兵に賊兵の攻撃する
み出合暫時戦闘元の線路ふ引揚ふ此
みふいて賊兵我軍ふ向つて應援兵多数

と出すゆゑ我軍益々苦戦警視隊攻
撃兵と配布す三番小隊正面より一番
小隊左側より進み戦ふこと殆ど二時
間因つて應援六番小隊と二手ふ分ち
一手々右側の山上より一手の正面小向
き連りて進撃す賊兵我軍の左側ふ
向き迂廻するを以て二番小隊と一
防衛せしむ玉来口より美代陸軍少

尉本営ふ來り陸軍の哨兵線へ連絡を
 通ずるを談ずこの日我が軍疲労且日
 没るを以て之と辞す同二十八日
 休戦本日古城の右側陸軍の哨兵線へ
 二番小隊一番小隊とありて連絡を通
 ト哨兵線路へ四五ヶ所の胸壁を築き
 古城の賊小隊對す同二十九日開戦午前
 第四時總進撃警視二番小隊一番小

隊陸軍兵と共に古城に向つて進撃古城
 の賊退走す續て竹田市中と放火賊悉
 く退走す尾撃し竹田城より一里計り
 追撃す残り一番小隊の本道より竹田へ
 進軍三番小隊六番小隊の元の線路の警
 備ふ残り賊の迂廻ふ備ふ午後全く鎮
 靜するを以て六番小隊と竹田ふ引き揚
 ぐ同三十日午前第四時整列警視隊(六五)

の二小隊并ふ臺兵十三聯隊第一大隊
ハ先驅として大群村に向ひ警視隊
四の二小隊并ふ臺兵十四聯隊第三大
隊工兵二分隊ハ後軍として宇多枝
進軍す同三十一日本日青山少佐遊撃隊
と率ひ三重市より賊兵の迂廻する
小會一苦戦牧口より引揚げ警視隊二
小隊四をりつゝ應援せんと欲する

玉田の途中山田に至るところ官兵已
み引き揚げたるに依り久原牧口三重
市の諸街道へ引き揚げ處々胸壁
を築き五番六番の小隊も伏野の胸
壁を築きて固守す六月一日村田保
三の警視隊白杵にて賊兵の迂廻に
遇ひ大に苦戦賊兵終に白杵城を陷
いれ續て大分縣下へ突出せんとする

島津家の
息女櫻島
不遊歩す



の勢ひあるに依つて我が軍戦路を戸
次に変轉するあり

斯くて鹿兒島縣下櫻島に滞せる島津從
二位從三位をとり一門の横山村といふ
地に在り護衛する士族ありと千二百人
ほど有りしやなまども追々逆徒の脅
迫によつて戦地へ赴き當時七百にばり
りあり村々を止宿すこの外あり鹿兒島

より立退きたるもの士民とも多く何
れの家も止宿人なきにあらざるべし此の如
く廻村中島津從二位の息女と見たり惣髪無
しの老士族先立みてその跡へ老女ら一き
りのたち引續て二三人の側女中を圍繞れ
て行く息女へ背低し全く遊歩み出掛けと
るふ土地の者道の傍に下坐す猶魚賣りそ
の外も来りざるや名不審にありし尋ね

たるみまの程西郷の本営よりの達一みて諸
 品とも島津家并に附属および土地人民の
 かり官軍方へ賣り渡して禁漁師その外
 申一達一らるゝに付他村ふへ右やうの
 みる全横山村ふ屯在する士族輩が言ふ
 觸らせ一又六月十七日午前二時一中隊と
 りりて三國峠の正面ふある賊壘に向ひ一
 と援んと官軍攻撃手一陷入れたもど如何

の策畧ふやありけん一ト先此所と引揚とる
 ふ又一手の外の賊壘と援て右翼旗返一の
 数壘と乗取り午前七時ごろ賊軍逃ると
 追撃して尾の市ふ入る官軍死傷ふ一探
 偵斥候と出に将又重岡ふ進入せんとする
 ふ賊徒千束川尻両村ふて官兵と支へんと
 す乃ち重岡より一里計り手前より山上
 ふ警言備をふすまゝ同日午前二時三重市

の先鋒の團兵みて大石賊壘と拔んと攻
撃一四方より大砲小銃と連発一その砲
聲萬雷の如く山岳為る震ふよりなるも賊
之小應撃一少しも屈する色るく勇進
猛烈るるよぞ流石の賊兵も撃ち立られ
て敗走す續いて総軍進撃一十七ハケ所
の賊壘と乗つ取りまゝ官軍先鋒尾の
市上進撃一賊の臺場を攻落したまふ

も其の他要害の臺場へ賊徒を萬死を極
めて堅く守るゝみぞ官軍息をもつぐん攻撃
一彈丸雨霰の如く飛ちり黒烟天に漲り
砲聲天地をくぐくをりの勢ひみゝて攻
立く茲を先途と戦ふも賊壘を漸くに
一々奪と乗つ取りしを賊等大ひふ
狼狽して死骸兵器を捨て重岡邊に潰
走せり同日佐伯口も下真村へ官軍進撃

古序金書言

の手^て苦^くとありけり

西南鎮静記二編卷之上終



010190508167

